



弥生の出雲王に出会える

季刊



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第40号

(2021年1月)

★ギャラリ―展  
「出雲神楽」

―その歴史と道具―

好評開催中〜2月23日(火)祝

島根県出雲地域の神楽を「出雲神楽」といい、その最大の特徴は、「七座」「式三番」「神能」という三部構成になっていることです。

このうち神能は、主に『古事記』や『日本書紀』に記された神話を題材とした舞のことで、「国譲り」や「八岐大蛇」、「日御碕」など、出雲地域を舞台にした演目も数多くあります。神楽と聞けば、この神能のことを連想する方も多いのではないのでしょうか。

この、神能を舞う際に欠かせない道具の一つが「神楽面」です。種類が多く、大きさも色々で、長さが30センチ以上もある鬼面などは、その迫力に圧倒されます。

これらには、貸面屋「林木屋」に伝わる江戸時代後期の神楽面(出雲市指定有形民俗文化財)のように、その歴史的価値から文化財に指定されているものもあります。長い歴史を持つ出雲神楽の舞を支えてきた神楽面。自然素材を優れた造形物に発展させる「匠の技」の結晶と言えます。しかし、現在、

出雲市内で神楽面を作る方は少なくなり、技術の継承が危ぶまれています。

そこで、神楽面の制作技術を目に見える形で残せないかと考え、出雲市平野町で神楽面の制作を行っている杉谷工房・杉谷茂さんにご協力いただき、普段なかなか見ることができない面の制作工程を展示しました。

今回の展示では、出雲神楽を代表する演目と神楽面を紹介しながら、その伝統を伝える技と想いに注目します。(伊藤はるか)



神楽面の制作工程

(制作協力: 杉谷茂氏)

★速報展

「国史跡 出雲国山陰道跡 追加指定記念展」

1月20日(水)〜5月24日(月)

2020(令和2)年11月20日、出雲市斐川町直江にある国史跡出雲国山陰道跡の東側350m区間を、国史跡に追加指定するよう、文化審議会から文部科学大臣へ答申されました。

出雲国山陰道跡は、今から約1300年前に整備された、都から地方を結ぶ七道(官道)の一つです。道幅が9mもあり、丘陵の尾根上を約1kmにわたって造成した痕跡が良好に残る全国でも数少ない遺跡です。

今回の速報展では、現代と古代の土木技術の比較を中心に、山陰で見つかった他の古代道路跡の情報も併せて紹介します。



尾根上を造成した道路のイメージ

(江角 健)

★ギャラリー展

「2000年前の弥生土器

—出雲型広口壺の生産—

2月25日(木)～7月5日(月)

弥生時代中期の出雲地域には、独特な形と文様で飾られた広口壺があります。これを「出雲型広口壺」と呼んでいます。今回は、出雲の特産品とも言える広口壺に注目し、弥生土器作りについて紹介します。

出雲型広口壺は、長く太い頸部から朝顔形に大きく外反する口縁部をもち、肩が張らない胴部をもつことが特徴です。また、口縁端面や口縁部内面、頸部下半には数条の凹線が施され、胴部上半は、羽状文や櫛状刺突文などで飾られています。口径33cm以上、器高60cm以上の大形品です。

これらの特徴的な広口壺は、150点以上確認でき、西は大田市から東は松江市、南は飯南町や奥出雲町に分布し、うち5割近くが出雲市内にあります。

出雲型広口壺は、1箇所で作られたわけではなく、少なくとも8箇所製作地があったことがわかってきました。

現在、土器を焼成した時に壊れ

た破片(土器焼成失敗品)が出雲市

の下古志遺跡・矢野遺跡・青木遺跡、松江市の森屋敷遺跡・雲垣遺跡、雲南市垣ノ内遺跡、飯南町板屋Ⅲ遺跡で出土しており、これらの遺跡で出雲型広口壺が作られていたようです。また、大田市鳥居南遺跡の広口壺の胎土には、三瓶山の噴出物(デイサイトなどの火山岩)が多く混ざります。これは、大田市内を流れる静間川流域の砂粒を混ぜたと推測されるので、出雲平野ではなく遺跡の近くで作られた土器と判断できます。

製作地が複数ある事実から、土器自体が運ばれて広く分布したわけではなく、製作者の移動や、製作技術を共有し土器作りが行われていたことが明らかになりました。展示では、出雲型広口壺から弥生時代の出雲人たちの活動を読み取っていきます。(坂本豊治)



出雲市矢野遺跡の出雲型広口壺  
1世紀・高さ65cm

★古文書の森をゆく⑤

「読んだ貸本、早く返すだけ」

「おや、甚吉さん久しぶりだの。何ぞ新板があるなら借りようじゃあねえか。」

「へい、それはありがたい。」

この会話は、1830年代に刊行された書物の一節で、江戸の貸本屋・甚吉が顧客の家を訪れた場面です。その挿絵(下の写真)には、風呂敷いっぱいに書物を背負い込んだ甚吉(左端の人物)が玄関の縁側にどっかりと腰を下ろした姿が描かれています。

江戸時代は出版技術の向上や識字層の拡大などを背景に多くの書物が流通しましたが、庶民にとって、書物は高価なものでした。そのため、貸本屋から書物を借り、レンタル料を払って読むというスタイルが広くみられました。



発見された貸本(出雲市所蔵)



しゅんしよくたつみその『春色辰巳園』  
(国立国会図書館デジタルコレクション)

しかし、借りた書物を返さない者が少なからずいたようで、これが貸本屋にとって悩みの種でした。そこで、貸本屋は延滞対策として、貸本に「読み終わったら早く返せ」と注意書きを書き加えたのです。

左上の写真は、このほど出雲市内の旧家で発見された書物です。さきの注意書きが黒々と記されていることから、この書物は貸本だったことがわかります。多くの人々が手に取り、読書に興じていたことでしょう。

江戸時代の出雲市域では、どのような書物文化が花開いていたのでしょうか。今後、さらなる史料の発掘と研究の進展が求められます。(中山玄貴)



続く「開館10周年記念式典」では、10年間の博物館運営でお世話になった方々に館長から感謝状が贈呈されました！



協力：三谷神社獅子舞保存会

**11月7日(土)、開館10周年記念イベントを開催しました♪**  
当日は約400名のお客様が来館され、10周年を祝っていただきました！  
オープニングを飾ったのは、力強い「三谷神社投獅子舞」。



協力：めめの会

他にも、「常設展のリニューアル解説」や、わたしがもらえる「よすみちゃんクイズ」を開催し、大盛り上がりの日でした！



協力：弥生の森おおつ

「弥生の森カフェ」では、地元団体の協力で、からあげ、焼きそば、ケーキ、お抹茶などを提供していただきました。



FROGMANさんはリモート出演！

FROGMANトークショーでは、しまねの吉田くんの生みの親の「FROGMAN」さんが制作した、博物館の新しいキャラクター「みすよちゃん」を初披露！

FROGMANさんと、渡邊貞幸名誉館長、花谷館長の知識とユーモア溢れる対談で楽しく和やかなトークショーになりました。トークショーの様子は、出雲市ユーチューブ公式チャンネルに掲載予定です。開館10周年を皆さまと一緒に祝いすることができ、職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、皆さまに愛される博物館づくりに努めていきます。今後とも博物館をよろしくお願ひします。

**博物館新マスコットキャラクター**

**「みすよちゃん」あらわる!!**

11月7日(土)に開催した

↑FROGMANトークショーで初披露となった「みすよちゃん」。体の中にいる人(布を巻かれた人物)や発掘の人の秘密などは、博物館ブログ等で公開していきます。お楽しみに！

また、博物館1階の受付では、「みすよちゃん」がデザインされたオリジナル

**缶バッジ 全2色**



缶バッジを配布していきます。(令和3年3月31日(水)まで)この機会にぜひ博物館にお越しください♪



新キャラクター「みすよちゃん」

★展示のご案内

▼ギャラリー展

好評開催中〜2月23日(火・祝)

「出雲神楽〜その歴史と道具〜」

●ギャラリートーク

1月16日(土)10時〜

2月14日(日)10時〜

※申込不要

2月25日(木)〜7月5日(月)

「2000年前の弥生土器

―出雲型広口壺の生産―

▼速報展

好評開催中〜1月18日(月)

「新発見・横穴墓の線刻壁画

―神門横穴墓群の調査から―

1月20日(水)〜5月24日(月)

「国史跡 出雲国山陰道跡

追加指定記念展

▼スポット展

好評開催中〜3月29日(月)

「出雲弥生の森博物館

開館10年展示のあゆみ

※いずれも観覧料は無料です。



★講座のご案内

▼文化財保護審議会委員講座

申込受付 1月8日(金)開始

●受講料 300円

①2月6日(土)14時〜16時

「出雲の神像―その信仰と造形」

●講師 的野克之氏

(島根県立古代出雲歴史博物館 参与)

②2月27日(土)14時〜16時

「大社の近代化

―神門通り新設と神苑拡張―

●講師 和田嘉宥氏

(米子工業高等専門学校 名誉教授)

③3月6日(土)14時〜16時

「海のたたら、山のたたら

―田儀櫻井家のたたら製鉄―

●講師 角田徳幸氏

(島根県埋蔵文化財調査センター 調整監)

講座の申込について

当日受付なし 先着40名

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9〜17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所  
 ※講座当日は、感染症予防のため、マスク着用、手指消毒、受付での体温測定にご協力ください。なお、発熱・咳・喉の痛みなどの症状がある場合は受講をご遠慮ください。

★館長古来夢

新年明けましておめでとうございませう。出雲弥生の森博物館は、昨年、めでたく10周年を迎えることができました。ひとえに市民の皆さまの支えあつてのことと感謝申しあげます。

今年、出雲市ができて80年の記念の年でもあります。出雲市ができたその経緯をご存じですか。

いま、私たちは、年を数えるのに、日本独自の元号「令和」とほぼ世界的に共通の西暦を使っています。今年、令和3年、西暦2021年です。ですが、戦前にはそれに加えて、「皇紀」という年の数え方を使っていました。日本初代の天皇とされる神武天皇の即位された年から数える年号で、昭和15年、1940年が「皇紀2600年」でした。

旧海軍の零式艦上戦闘機、通称「ゼロ戦」が生まれたのもこの年。全国では「皇紀2600年」に合わせて様々なイベントがありました。京都の公家・五撰家筆頭の近衛家(当主は近衛文麿)、かつてその領地だった兵庫伊丹市が誕生したのもこの年。出雲でもこのような流れに乗るべく努力はあつ

たのですが、一年の遅れとなり、1941(昭和16)年2月11日の「紀元節」(神武天皇即位日)に「出雲町」合併、11月3日「明治節」(明治天皇誕生日)に「出雲市」市政施行がなされました。

その後、12月7日に市議会議員選挙、即日開票。その翌日が真珠湾攻撃成功の発表。出雲市民も耳にしたのが、この大本営発表でした。「帝国陸海軍は、本八日未明、西太平洋においてアメリカ、イギリス軍と戦闘状態に入れり」

出雲市は、その歩みを始めた日から戦時下にあつたのです。この歴史的事実を、出雲市民は忘れずに共有していかなければならないと思います。年が改まっても、変わらない歴史があります。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2021年1月

〒693-0011  
 島根県出雲市大津町2760  
 (TEL) 0853-25-1841  
 (FAX) 0853-21-6617  
 (E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp  
 http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料 / 無料  
 ●開館時間 / 9:00〜17:00 (入館は16:30まで)  
 ●休館日 / 火曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始

